



一般社団法人日本マススクリーニング学会 2024年度第2回理事会議事録

日時：2024年8月22日（木）15:30～18:10

会場：熊本城ホール3階 中会議室 D1/D2

議長：大浦敏博 理事長

出席：【会場】石毛信之、石毛美夏、伊藤哲哉、大浦敏博、窪田 満、九曜雅子、小林弘典、酒本和也、田島敏広、中村公俊、沼倉周彦、花井潤師、濱崎考史、南谷幹史、吉田真一郎（以上 理事）

重松陽介、山口清次（以上 監事）、福士 勝（名誉会員）

【WEB】大石公彦、倉澤健太郎、但馬 剛（以上 理事）

欠席：小原 收（理事）

理事：18名、監事：2名、名誉会員：1名、出席者合計：21名

以上敬称略

議事次第：

1. 開会の辞（大浦 理事長）

- ・出席者が定数を満たしたため、理事長より理事会を開催する旨挨拶があり開会した。

2. 第51回学術集会会長挨拶（中村 学術集会長）

- ・第51回学術集会の中村会長より挨拶があった。
- ・学術集会時に開催する「IJNS 最優秀演題賞（IJNS Best Presenter Award）」は8月22日（金）9:00からの発表について、学術集会に参加している理事が当日審査を実施する。点数化し、高得点順に、最優秀演題賞1名（IJNS協賛）、若手優秀演題賞2名、ファイナリスト3名（いずれも学術集会から賞金）を選出し、会員総会時に表彰する。

3. 報告事項

1) 総務報告（伊藤 理事）

①会員現状報告

- ・正会員は若干増えてきている。
- ・賛助会員は島津製作所が入会し15社となった。

②委員会組織

- ・現時点では変更なし。

2) 2024年度中間会計報告（田島 理事）

- ・2024年4月1日から7月31日までの会計の中間報告がなされた。現時点では予定通り進んでいる。統一ソフト、タンデムマスサポート収入の項目は収入の計上がないため、削除した。
- ・次年度への繰越金について、任意団体から移行した際、一般会計以外で特別会計扱いとなっていたものを一般会計に繰り入れたため、約2,000万円となっているが、年度ごとの収支上では、赤字決算となっている。そのため、収入源となるべき事業（研修会の開催、賛助会員の増加、広告掲載など）を検討し、提案する予定。

3) 各委員会報告

①編集委員会（窪田 理事）

- ・技術者からの投稿に対応するため、技術系委員を3名追加した。
- ・今後は編集委員会を2～3ヶ月に1度開催する予定。
- ・今後の編集方針として、一般的な投稿論文は編集委員会で担当する。投稿論文の査読は、原著と技術解説のみとし、2名の方に依頼する。
- ・学術集会で発表された演題の中から座長に学会誌への投稿推薦演題を選んで頂くと共に役員宛にも推薦を依頼する。
- ・投稿時の同意書と利益相反の英文を作成した。ホームページに公開予定。

② 渉外広報・国際交流委員会（田島 理事）

- ・IJNS はあと 3 編投稿があれば書籍化が可能とのこと。投稿をお願いしたい。
- ・今年度より「IJNS 最優秀演題賞 (IJNS Best Presenter Award)」が設置され、最優秀賞 1 名には賞状と副賞 (1,000 スイスフラン) が授与される。また、論文の掲載料も免除される。

③ ホームページワーキンググループ報告（田島 理事）

- ・学会ホームページの改訂に関するワーキンググループを設置した。
- ・古い情報が残っているので最新の情報に改訂することと精度管理事業に関する情報をタンデムマス・スクリーニング普及協会の HP から移行もしくはリンクを張るようにしたい。
- ・本会のホームページは一般の方が情報を集めるために閲覧することも多いので、画面の構成を検討し、情報を探しやすいページにしたい。他学会の HP を参考にする。
- ・見積り書の作成を複数の業者に依頼し検討する。

④ 精度保証システム委員会（大浦 理事長）

- ・昨年度より、本学会が外部精度管理業務と内部精度管理支援を行っている。
- ・2024 年度より相談業務の対象疾患に内分泌疾患を追加した。
- ・タンデムマス通信は名称を新生児マススクリーニング通信に変更し、8 月に第 19 号を発行。
- ・新生児スクリーニング全国ネットワーク会議は今年も 2 月に開催予定。
- ・SCID/SMA を対象とする実証事業も 2023 年度から開始されている。
- ・現在まで 33 自治体が確定しており（こども家庭庁母子保健課から内示あり）、実証事業には精度管理業務を行うことが必須条件となっている。
- ・実証事業の費用は令和 4 年度の出生数を基に傾斜をかけ、下記のように設定した。

A:1 万人未満 7 万円、B:1 万以上 2 万未満 9 万円、:2 万人以上 11 万円（税別）

⑤ 教育研修委員会（沼倉 理事）

- ・2023 年度は 3 月にオンデマンドにて研修会を実施済。基礎技術者 11 名、専門技術者 56 名、担当医 21 名の参加があった。
- ・2024 年度の研修会は現在検討中。開催方法は昨年同様とするが、参加費については昨年度と同額で良いか検討する。昨年度、懸案事項となっていた倍速視聴対応なども事前に確認して対応する。
- ・技術者の参加者を増やす策を検討したらどうか、開催時期を再度検討してほしいという意見があった。
- ・9 月中にプログラムの確認、演者の選定を行い、年内には準備を終了、2 月にデータ登録を行い、3 月中にオンデマンドにて開催予定として検討を進めている。

⑥ 倫理・COI 委員会（窪田 理事）

- ・2023 年度に関する利益相反調査を実施した。回答書は事務局で保管している。

⑦ 将来計画委員会（但馬 理事）

- ・従来領域、新領域の関係学会が集まって意見交換を行う協議体を設置する方向で検討していたが、本委員会に各領域を代表する専門家を集めて情報共有・意見交換をするという方法に変更すべく委員会で検討中。
- ・人選についても、委員会で検討中。
- ・定期的に委員会を開催して、情報提供などを行う予定。

⑧ 患者支援登録委員会（濱崎 理事）

- ・患者会との交流を行い、患者会からの意見を伺い、学会として状況を把握するための窓口となる。

「理事からの意見」

- ・患者登録となると、JaSMIn (先天代謝異常学会) と重なる部分がある。名称自体を変更したらどうか。
- ・将来的には将来計画委員会と合併して、状況把握を行い、新しい疾患領域の学会との窓口となり、情報共有を行ってはどうか。

- ・ 様々な患者会に関する情報を学会として把握しておくことが重要であり、対応する委員会を設置しておくことは必須かと思う。予後調査に結び付けられないか。

⑨特殊ミルク委員会（大浦 理事長）

- ・ 災害時の特殊ミルクの供給体制をどうしたらよいか検討中。特殊ミルク事務局が被災した場合を想定して、地域ごとに担当者を決めて、対策を検討している。

⑩保険・薬事委員会（窪田 理事）

- ・ 3 団体（本会・日本小児内分泌学会、日本先天代謝異常学会）に関連した要望が複数あがったが認められなかった。
- ・ 新規新生児マススクリーニングについては、保険診療だけでなく、実証事業の形式で進められている。

4) 実証事業関連報告（大浦 理事長）

- ・ SCID/SMA を対象とする実証事業を開始するにあたり、技術部会を中心に実施要項と手順書を作成した。これを基に実証事業の精度管理業務を進めていく。

5) 技術部会報告（石毛 理事）

- ・ 運営委員会を年に 2 回開催した。
- ・ 功労者として酒井好美氏を推薦した。
- ・ 第 42 回技術部会研修会を 2025 年 2 月もしくは 3 月にオンラインにて開催予定。技術部会運営委員会東ブロック区が担当する。
- ・ 第 43 回技術部会研修会を 2026 年 2 月もしくは 3 月にオンラインにて開催予定。技術部会運営委員会西ブロック区が担当する。
- ・ 2024 年度地区研修会は九州・沖縄地区が担当し、2024 年 10 月に開催予定。
- ・ 技術部会実施の施設・会員向けアンケートを実施したので、結果は後日報告する。
- ・ 拡大スクリーニングワーキンググループでは実証事業に関する外部精度管理用ろ紙血検体の準備を進めている。現在、第 8 回のサンプル作成まで終了している。
- ・ 統一ソフトについてはワーキンググループ内でリリースをした。不具合などについて調整中で、年会には配布予定（無料）。
- ・ ライソゾーム病の EQC 体制構築の検討については公式に進んでいない。今後の検討事項とする。

6) 認定技術者制度認定会報告（九曜 理事）

- ・ 2024 年度新規申請者は 6 名、更新申請者は 10 名が承認された。更新保留となっていた 2 名から申請があり、1 名は更新として申請、1 名は更新申請時期を過ぎていたため、新規申請として承認された。
- ・ 現時点での認定技術者数は 71 名となった。
- ・ 認定技術者不在の検査機関は現在 5 施設で、検査施設ごとの取得率は 86%となった。
- ・ 更新保留に関する規則に不明瞭な点があること、認定証の取り扱いも明記されていないことから、規則の改定について認定部会で検討する予定。
- ・ 学術集会の参加単位については、「原則、現地参加の場合のみ認定単位を付与する」こととし、規則への追加について検討する。

7) 名誉会員表彰・功労者報告（大浦 理事長）

- ・ 名誉会員ならびに功労者について下記のとおり推薦があり承認された。
名誉会員候補：杉原 茂孝先生（西船こども成長クリニック・東京女子医科大学）
松原 洋一先生（国立成育医療研究センター）
功労者候補：酒井 好美先生（公益財団法人愛知県健康づくり振興事業団）

8) 永年勤続者表彰報告（大浦 理事長）

- ・ 下記のとおり推薦があり承認された。
・ 橋本 敦子氏（公益財団法人東京都予防医学協会）

- ・藤原 紗季氏（広島市医師会臨床検査センター）
- ・山本久美子氏（公益財団法人鹿児島県民総合保健センター）
- ・渡辺 和宏氏（公益財団法人東京都予防医学協会）

9) 第 52 回学術集会準備進捗状況（伊藤 次期学術集会長）

- ・第 52 回学術集会の情報は下記のとおり。
- 会 期：2025 年 10 月 3 日（金）～4 日（土）
- 会 場：ウインクあいち（愛知県名古屋市中村区名駅 4-4-38）
- テーマ：変革の時 我々は何をすべきか？

10) その他（大浦 理事長）

① 定款一部変更・登記について（大浦 理事長）

- ・学会事務局の移転に伴い、定款第 2 条の所在地を変更（渋谷区→中央区）する。定款変更に伴い、所在地変更の登記を実施する。

② 第 128 回日本小児科学会学術集会シンポジウム

- ・シンポジウムの企画案を提案したが不採用の通知があった。教育講演の企画については審議中。

③ 2025 年度 PAS annual meeting における発表者推薦

④ Pediatric Academic Society Meeting 2025 におけるシンポジウム案提案

- ・上記 2 件とも該当なしのため申請はしていない。

⑤ WHO recommendation (Sponsorship conduct)

- ・日本小児科学会の和文紙編集委員会からの情報で、WHO からミルク関連企業のバックアップ（スポンサーシップ）を受けた学会や学会誌の発行は不可とのこと。本会は特に問題はなし。

⑥ 災害対策委員会設置について

- ・日本小児内分分泌学会の災害対策委員会から、本会との情報共有を行いたいが、本会に同様の委員会があるかという問い合わせがあった。
- ・委員会の設置について検討したが、正式な委員会の設置は見送りとなった。ただし、小児内分分泌学会との窓口担当者（田島理事、南谷理事）を決めておくこととした。

4. 審議事項

1) 財務関連：2025 年度予算（案）

- ・2024 年度と大きな変更点はないが、項目ごとに微調整を行い、予算案を作成した。
- ・ホームページ改定のため、100 万円を計上している。そのため、収支としては赤字予算（マイナス 100 万円）とした。
- ・法人税や消費税もあり、例年赤字傾向にあるが、年会費の値上げは難しいと思われる。そのため、今後は収入増の対策を検討していきたいとの報告があり、理事会にて承認された。
- ・ホームページ改定費用の一部は第 50 回学術集会（長崎会長）の寄付を使用する予定。

2) 投稿規程改定案/英語版 同意書・COI

- ・投稿規程の一部について下記のとおり改定案が提案され、承認となった（別紙参照）。

9. 執筆上の基本的注意事項

3) 2 ページ目以降

記載順は ①要旨、②本文、③利益相反、④謝辞、⑤文献、⑥表、⑦図の説明、⑧図、⑨英文抄録（英文表題、英著者名と所属、英文要旨）。

~~⑥ 図、表、写真のタイトルおよびその説明は、原則として英文で作成する。~~

~~⑨ 英文抄録および英文図表を付けた投稿は、努力目標とする。提出された英文抄録については編集部、または編集委員会で英文の revise を行い、編集をすることができる。~~

12. 引用文献の記載方法

2) 山岸卓也, 藤倉かおり, 田上泰子, 他: 速液体クロマトグラフィータンデム質量分析計を用いた先天性副腎過形成症スクリーニングに判定基準の検討. 日本マススクリーニング学

会誌. 26(1): 43-50, 2016.

原稿投稿先：事務局住所変更

- ・著者および共著者の同意書ならびに自己申告による利益相反 (COI) 報告書の英語版についても承認された。

3) 学会誌電子化について (窪田 理事)

- ・現在年間 3 号 (うち 2 号は抄録集) を印刷し、発行している。郵送料の値上がりと郵送の方法が変わりつつあることなどから、編集委員会ではオンラインジャーナルに関して J-STAGE での公開なども含め検討を進めている。
- ・抄録号のみ現行のまま (紙媒体での制作)、1 号ならびに 3 号を電子化 (J-STAGE 公開) した場合の費用を算出した。広告料は減収となるが、作業費用は約半額となる予定。
- ・編集委員会からの提案について、理事会だけでなく、広く意見を求めた方がよいという意見があり、会員に向けたアンケート調査を実施し、希望を含め意見を伺い、時間をかけて検討することになった。

4) 2027 年度第 54 回学術集会長候補について

- ・第 54 回学術集会長 (2027 年度) について現役員で学会長未経験者の先生方に是非立候補もしくは推薦をお願いしたい。学術集会終了後にメール審議を行いたい。

5. 閉会の辞 (大浦 理事長)

- ・理事長より閉会の挨拶があり、理事会は終了した。

以上

2024 年 9 月 25 日

一般社団法人 日本マスキング学会

議長: 大浦 敏博



議事録署名: 重松陽介



議事録署名: 山口清次

